

平成30年10月17日（水）
平成30年度感染症危機管理研修会
国立感染症研究所戸山研究庁舎



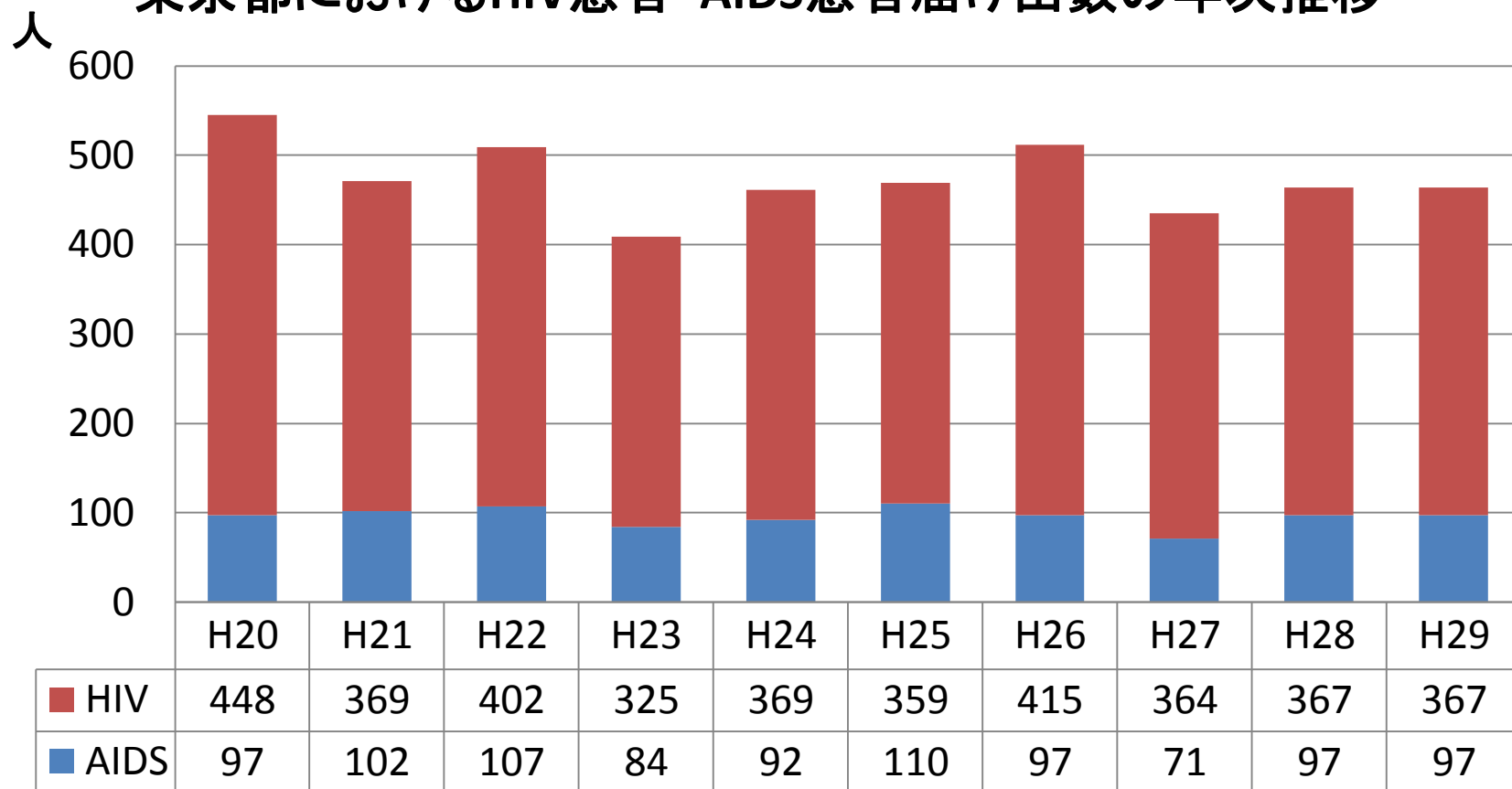
東京都における性感染症・オリンピック パラリンピック等への取り組み

東京都健康安全研究センター
疫学情報担当 石川貴敏

1. HIV/AIDSの動向
2. 梅毒の現状と対策
3. その他

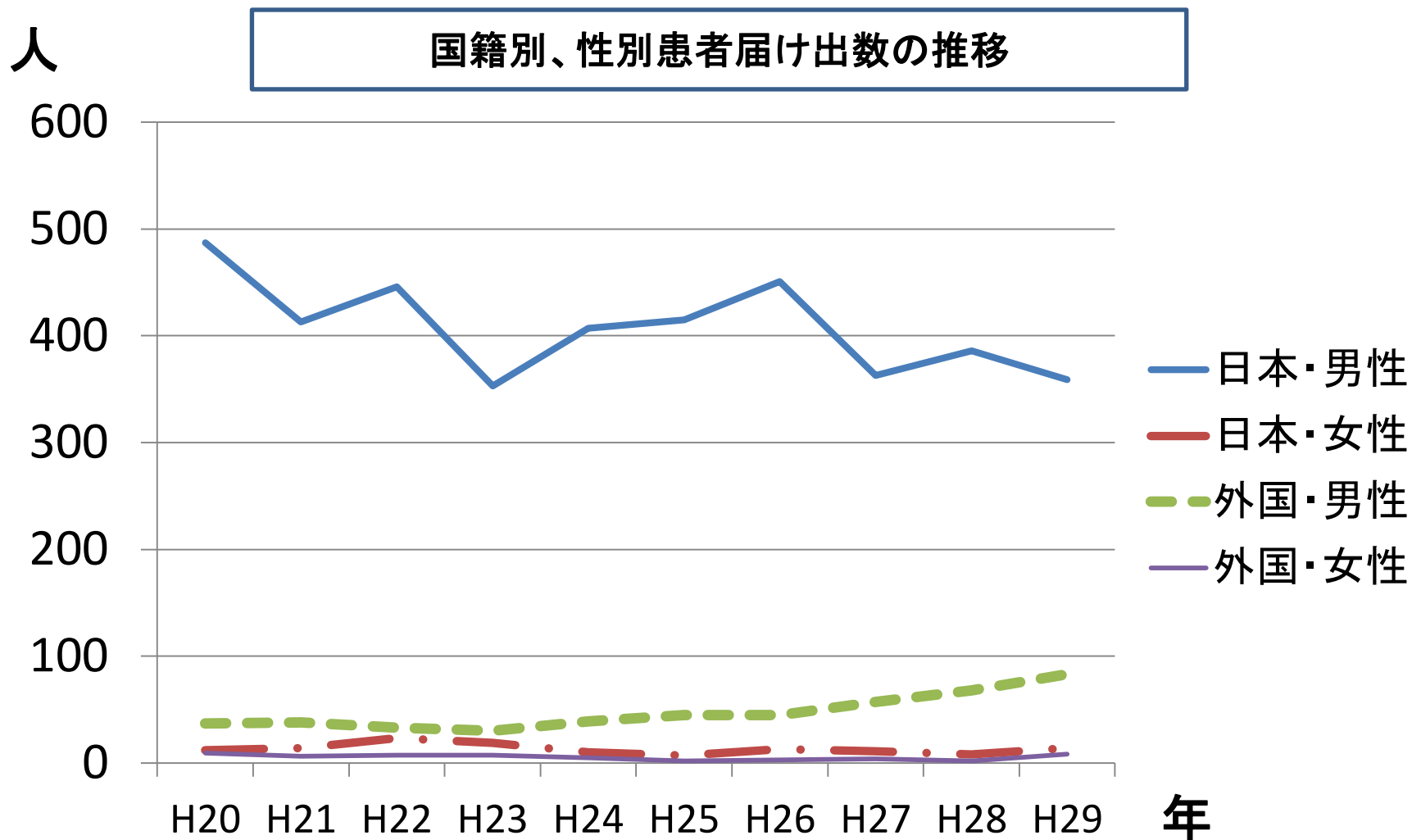
後天性免疫不全症候群

東京都におけるHIV患者・AIDS患者届け出数の年次推移



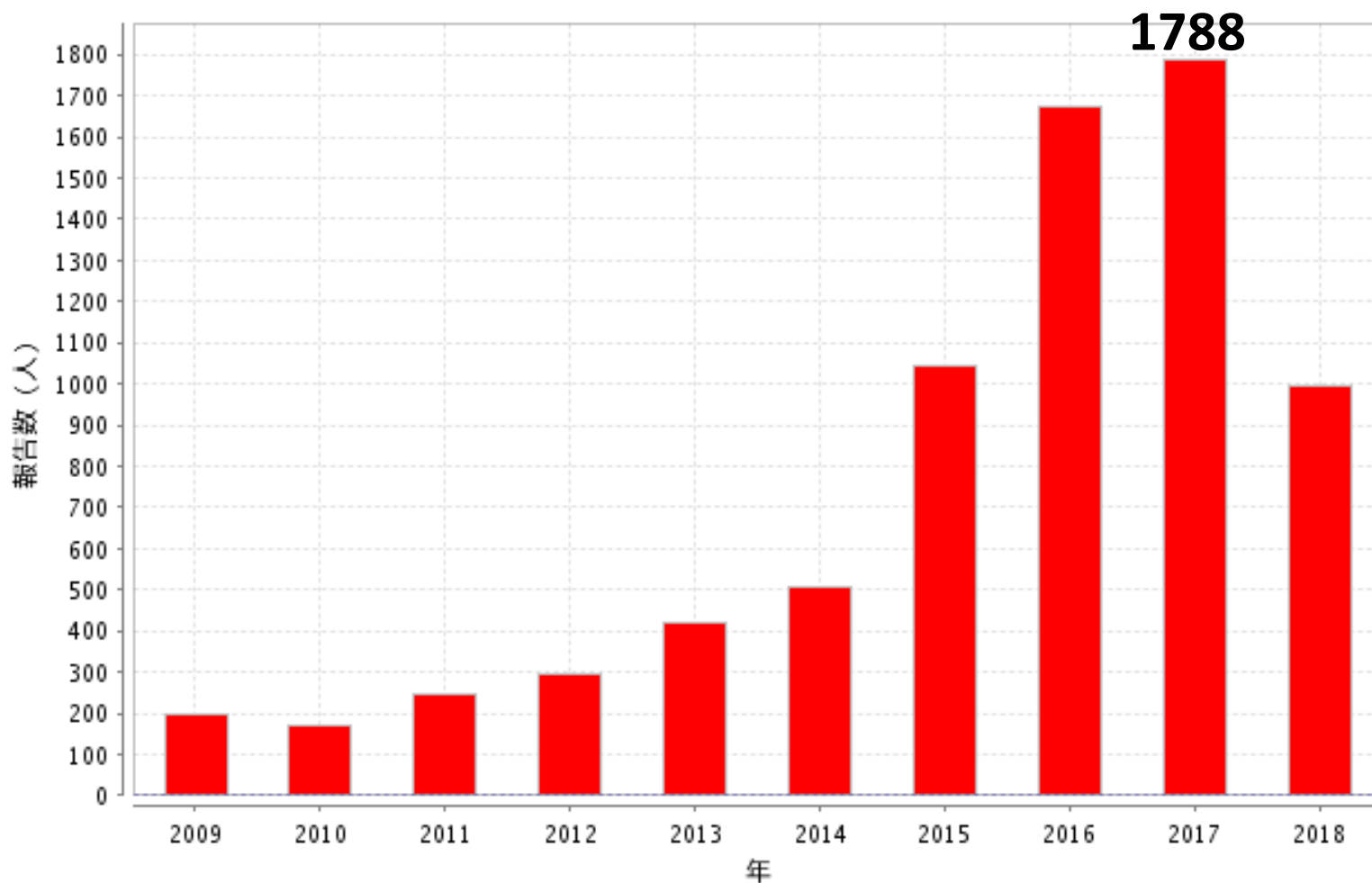
性感染症トピックス

外国籍男性は前年から15件増加し過去最高



性感染症トピックス

梅毒患者の届け出数年次推移



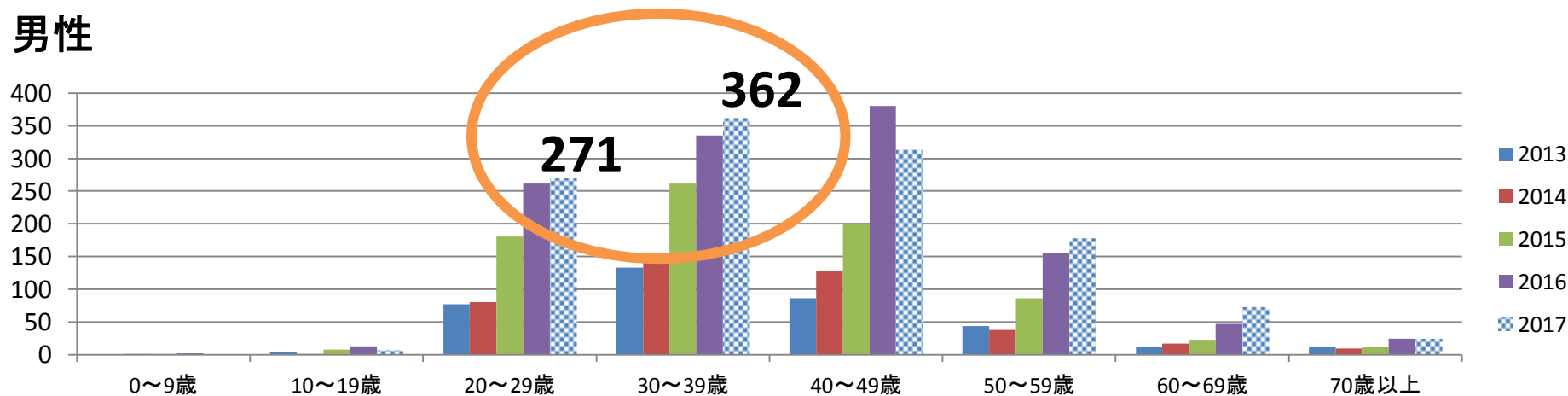
* 2018年は第30週まで

■ 梅毒

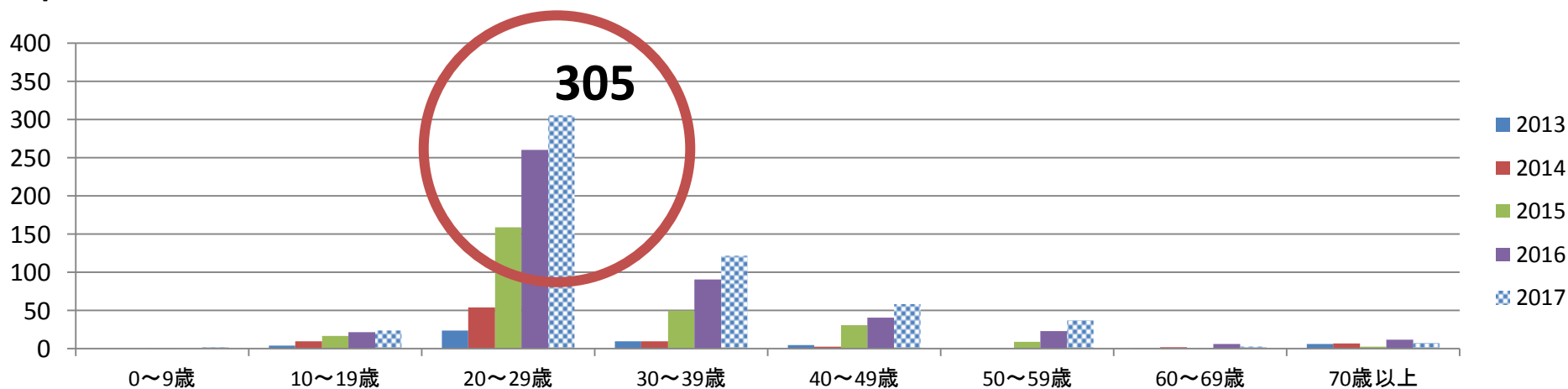
性感染症トピックス

性別年齢階級別梅毒患者数の年次推移

男性

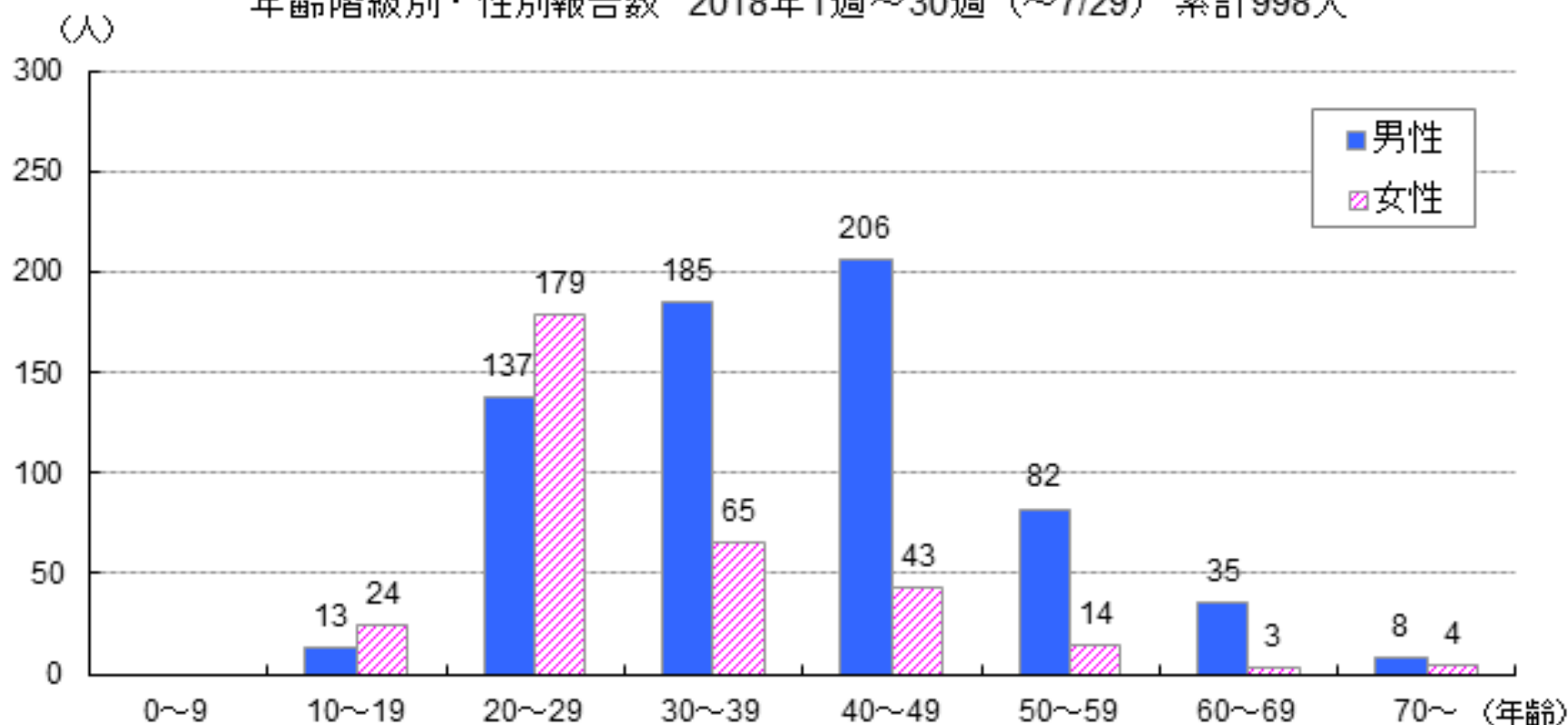


女性

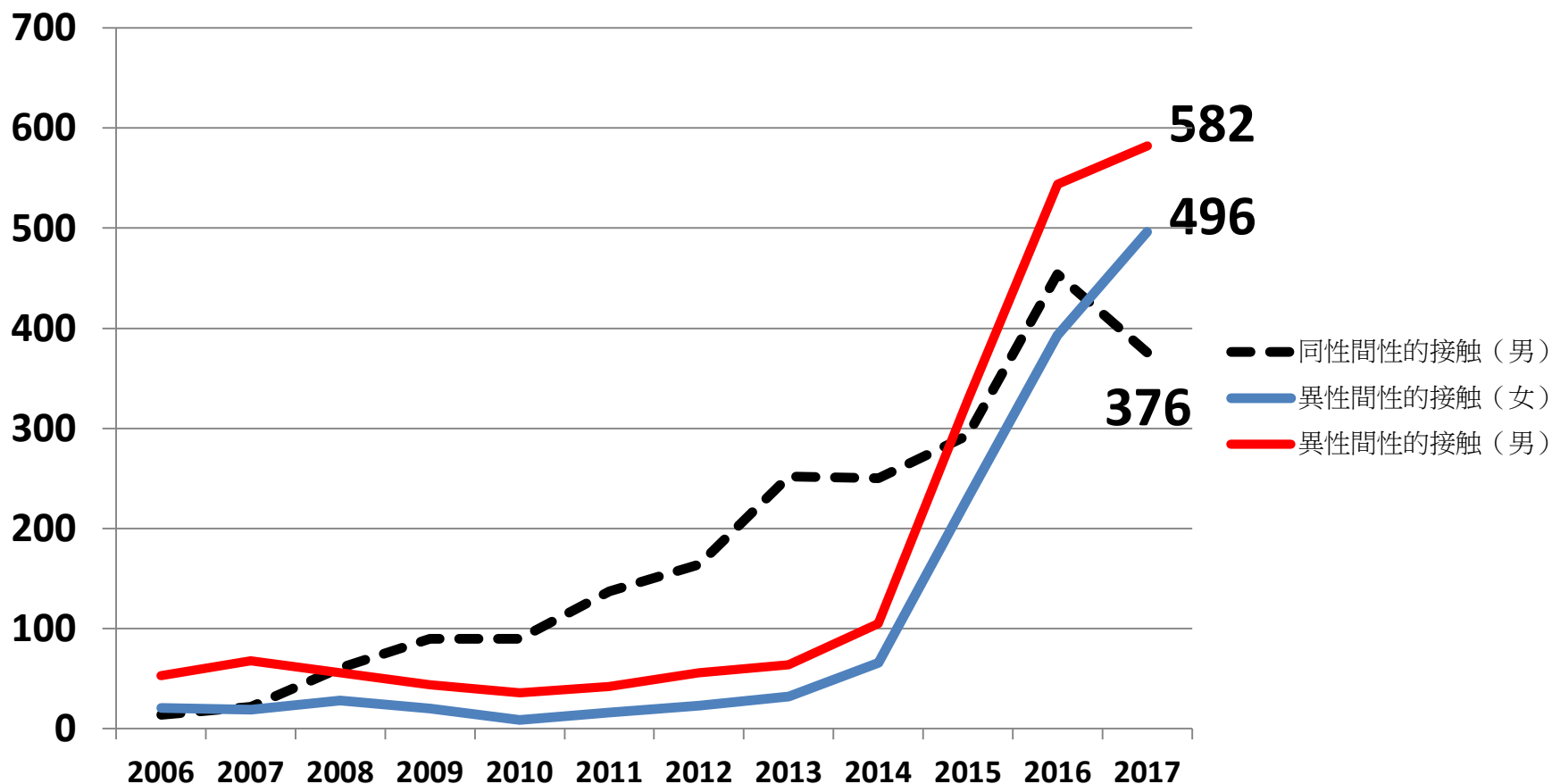


2018年東京都の梅毒届け出状況

年齢階級別・性別報告数 2018年1週～30週（～7/29） 累計998人



梅毒の男女別感染経路の比較



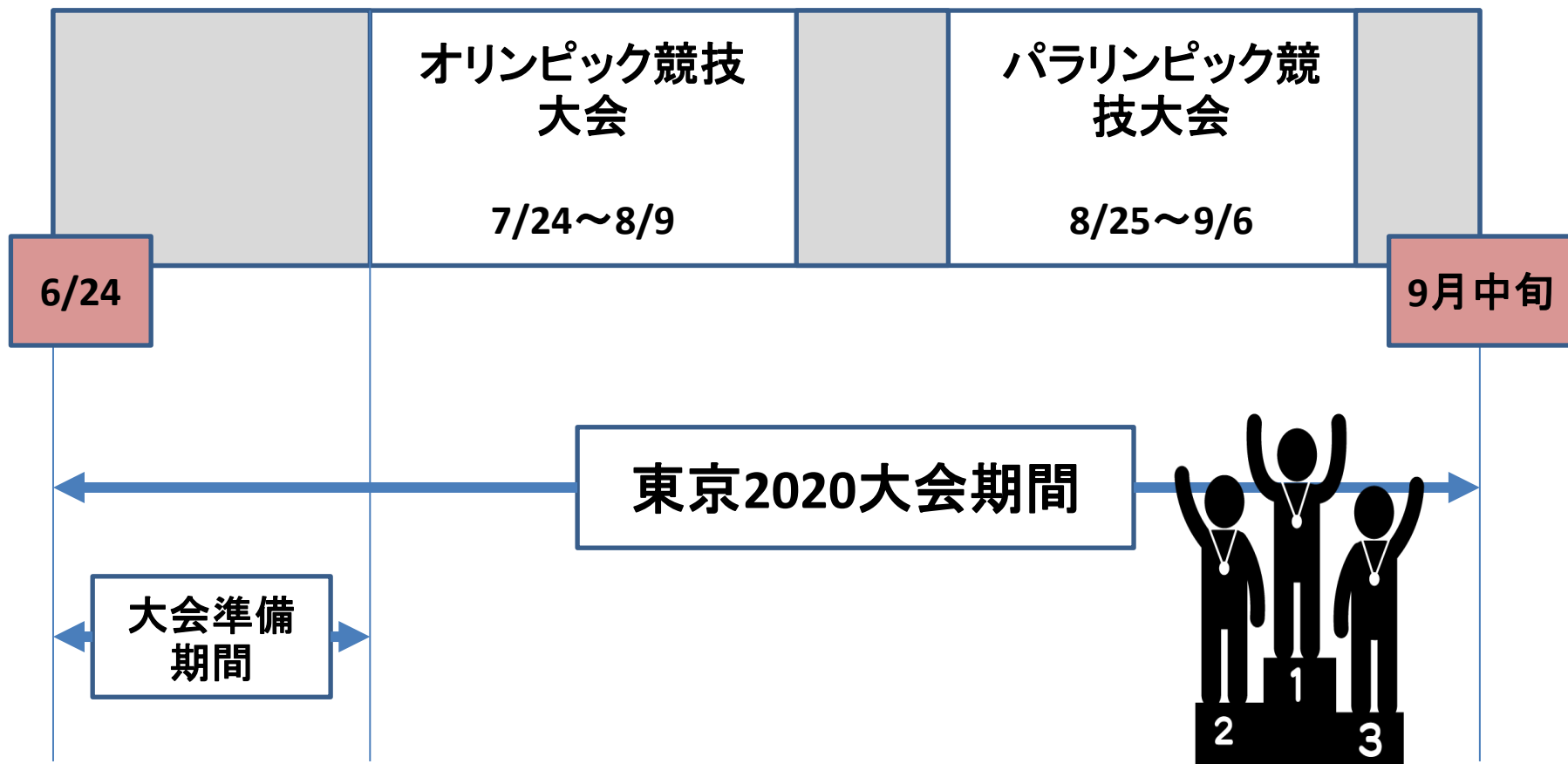
平成30年度 梅毒緊急対策

- 1 普及啓発の強化
 - ホームページ充実
 - インターネット広告
 - ポスター・リーフレット作成
- 2 検査対策の強化
 - 都検査相談室の梅毒検査体制強化
- 3 医療体制の確保
 - 医師向け研修
 - 診療医療機関の情報提供

オリンピックパラリンピックに向けた取り組み

東京2020大会に向けた感染症対策

オリンピック・パラリンピック開催期間



大会規模・概要

正式名称	第32回オリンピック競技大会（2020/東京）	東京2020パラリンピック競技大会
競技数	33競技	22競技
選手数	204か国約10,500人	164か国約4200人
(ロンドン2012大会ベース)		
チケット販売数	約1,130万枚（ロンドン2012大会ベース）	
ボランティア数	約11万人（大会ボランティア及び都市ボランティア）	
大会全体手で提供される食事数	約1,400万食（ロンドン2012大会ベース）	
競技会場	都内25か所、都外18か所（H30年4月12日現在HP情報）	

東京2020大会 都内会場と管轄保健所

ヘリテッジゾーン

オリンピックスタジアム
東京体育館
国立代々木競技場
日本武道館
東京国際フォーラム
国技館
馬事公苑
東京スタジアム
武蔵野の森総合スポーツ
プラザ



新宿区保健所
渋谷区保健所
千代田区保健所
墨田区保健所
世田谷区保健所
多摩府中保健所



東京ベイゾーン

選手村
東京ビックサイト
(国際放送センター・メインプレスセン
ター)

有明・お台場・潮風・青海・辰巳
海の森・夢の島などに設置され
る14の会場



選手村:
中央区保健所
東京ビックサイト:
江東区保健所
会場:
江東区保健所
みなと保健所
品川区保健所
江戸川保健所

大田区保健所

○ 大会に関する施設を管轄する保健所が11か所、空港を管轄する保健所が1か所

過去のオリンピック等大会における感染症

- ・1996年アトランタオリンピック大会、および2000年シドニーオリンピック大会期間中の感染症は、医療受診数の1%未満であった
- ・2004年アテネオリンピック大会中、プライマリケア医を受診した患者の健康問題の中で最も多かったのが**呼吸器感染(6.7%)と胃腸炎(3.7%)**だった
 - ・4開催地域(ギリシャ人口の51%を占める地域)で記録された**感染症罹患率は2～3%**
 - ・競技場での報告はなし、開催市におけるオリンピック関連性イベントで発生
 - ・食物・水を介した感染症 小クラスター(2～4人) 14個、大クラスター(6～38人) 8個が報告
- ・2012年ロンドンオリンピック・パラリンピック大会開催中に、大きな公衆衛生上のインシデントは生じなかった
 - ・期間中に**胃腸感染症と呼吸器感染症のアウトブレイクが少数報告**
- ・2017年、平昌大会冬季大会では**ノロウイルスによる感染性胃腸炎が患者数が200人以上に上り、1200人の警備員が休業**

東京都におけるリスクアセスメント

<評価基準>

- ①都内で一定数発生届の提出がある輸入感染症
- ②国外から都内への持ち込みが懸念される疾患
- ③大会に伴う都心部の人口増加により、集団発生のリスクが高まると考えられる疾患
- ④流行予測調査による抗体保有率の状況や国内のワクチン接種状況から感受性者が多く、集団発生の原因となる可能性が推定される疾患



		輸入例の増加	大規模集団発生の懸念	高い重症度
ワクチン予防可能感染症	麻疹	○	○	△成人
	風疹		○	
	百日咳		○	△小児
	水痘		○	
	流行性耳下腺炎		○	
	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	○	○
新興・再興感染症	インフルエンザ		○	△
	中東呼吸器症候群	○		○
	蚊媒介感染症 (デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症)	○	○	△デング熱
食品媒介・経口	腸管出血性感染症		○	○
	細菌性赤痢	○		
	腸チフス	○		
	感染性胃腸炎		○	
	A型肝炎		○	

結核、梅毒、HIV/AIDS、については、潜伏期が長い為、別途評価

東京2020大会の安心・安全の確保のための対処要領〈感染症対策分野〉

「東京2020大会の安全・安心の確保のための対処要領(第一版)」を平成30年3月に策定。
2020年までに適宜改定

4つの視点：治安対策・サイバセキュリティ・災害・感染症

感染症対策分野における対処要領の考え方

- ・東京2020大会関係者、観客らが諸外国、国内から東京を訪れるため、多くの人が集まることによる感染症発生リスクの向上
- ・大会期間中に都民や訪都者の健康を守り、生活や社会機能を維持し、円滑な大会運営を図る責務
- ・万一危機的事態(大会運営に支障が生じる可能性)に陥った場合でも、速やかに被害拡大防止策を図るための健康危機管理対策の強化

危機的事態の判断の基準

A 重篤性

- ①生命の危機
- ②入院が必要
- ③日常生活に支障(欠勤等)

B 感染力

- ①ヒト-ヒト感染(強)
- ②ヒト-ヒト感染
- ③動物・昆虫媒介感染
- ④食品・環境媒介感染

C 発生地域

- ①選手村・競技場を含む地域
- ②繁華街等人口密集地域
- ③ ①②以外

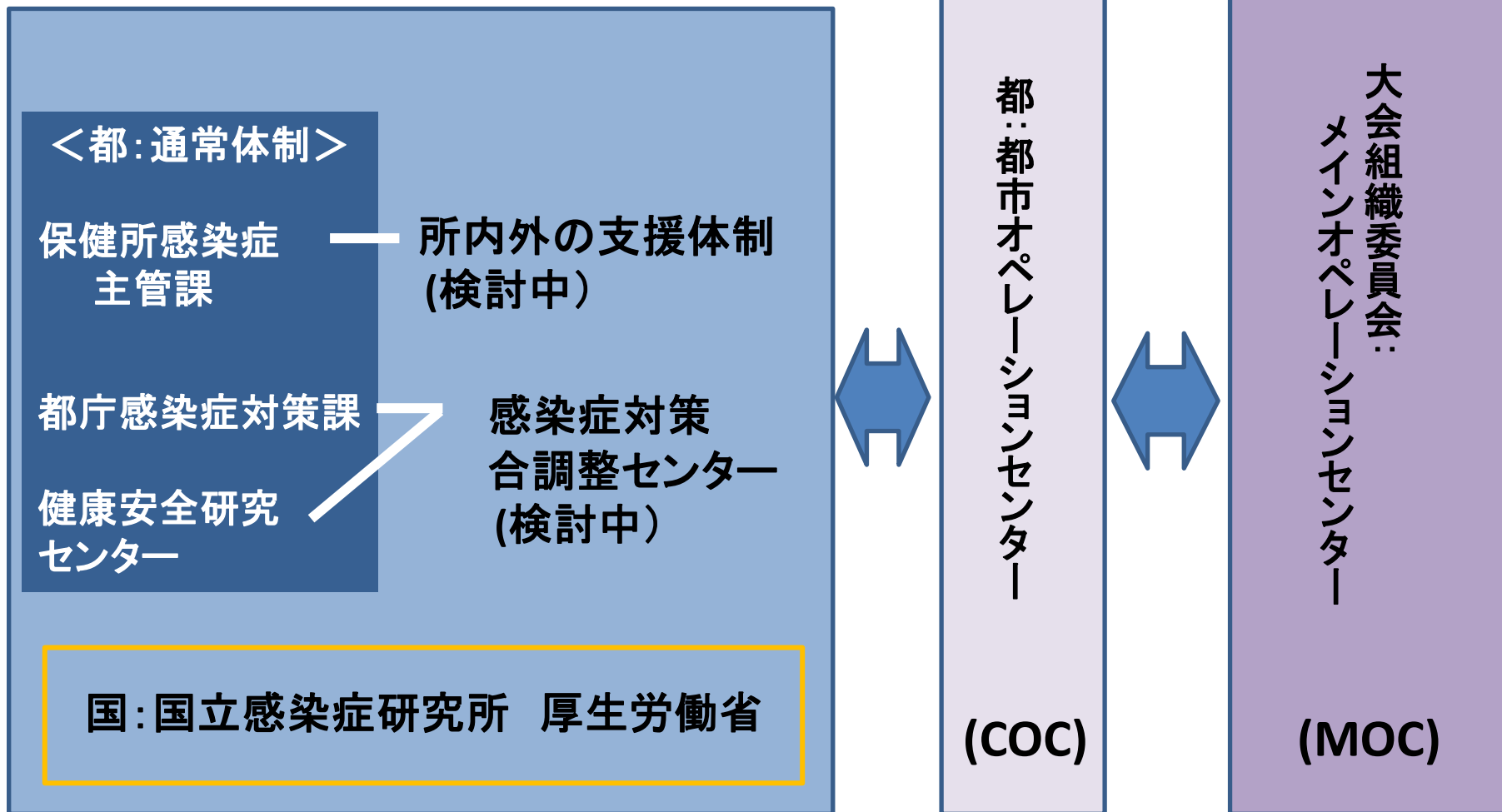
D 発生範囲

- ①不特定多数
- ②特定の属性・集団
- ③散発

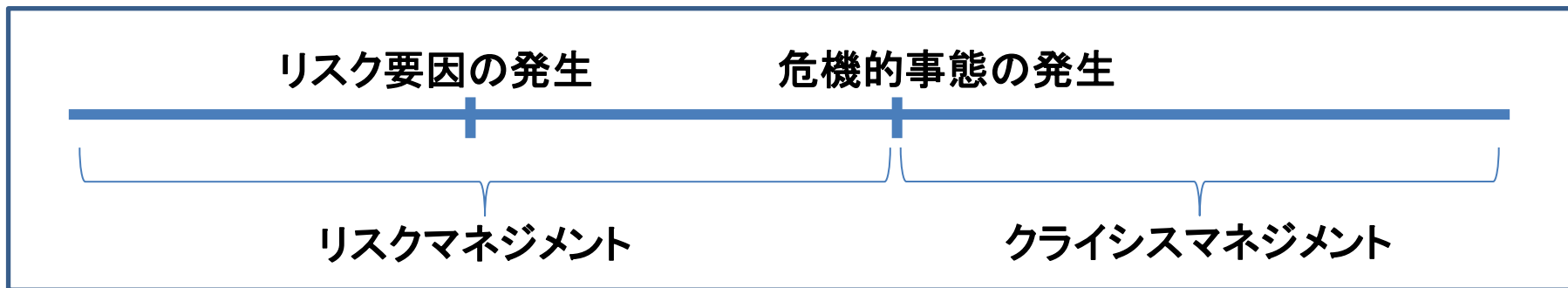
感染症対策における組織体制

感染症対策強化体制

東京2020大会の運営

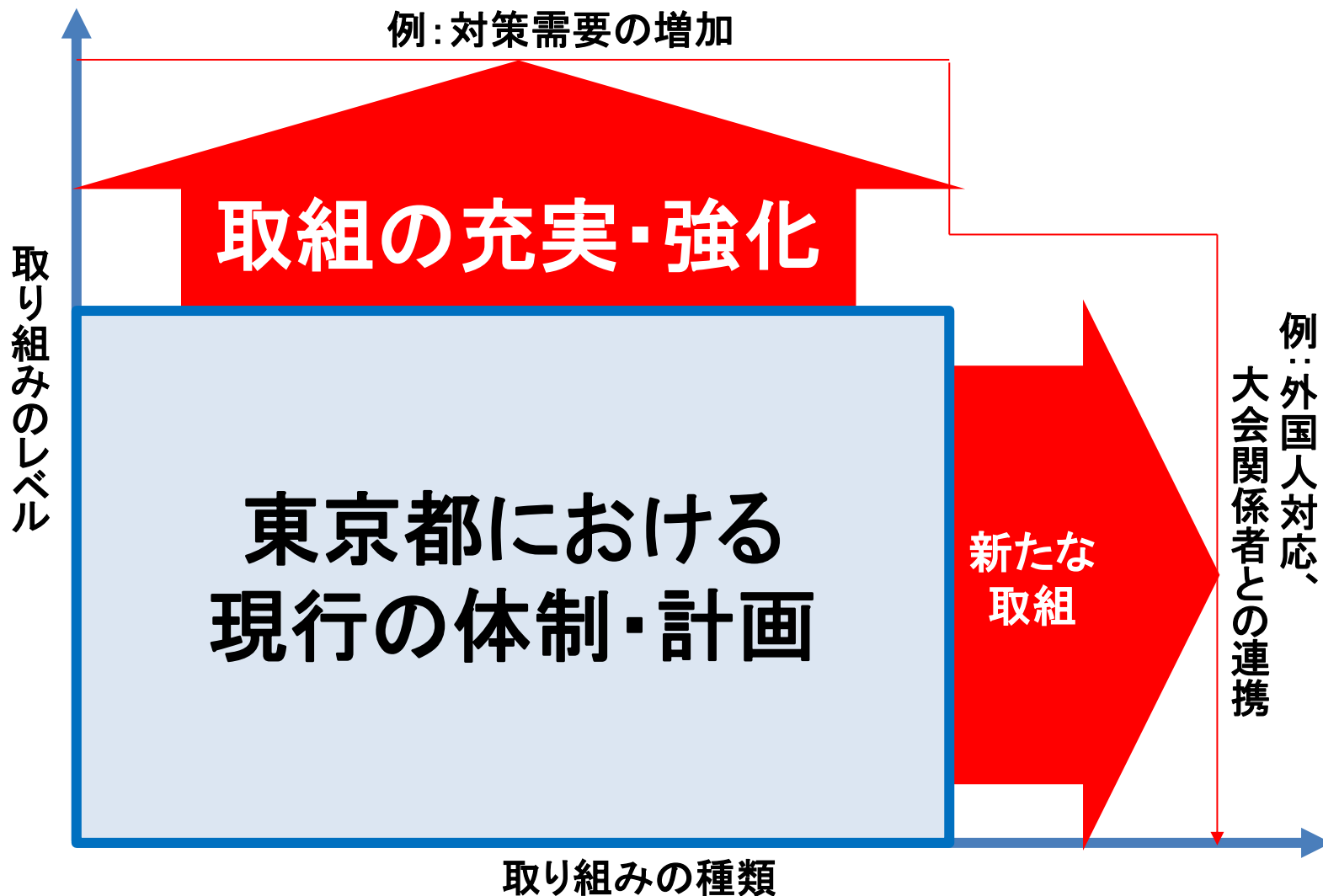


感染症対策における基本的な対応



○大会時における保健所感染症対策の手引き(案)の作成

現行の体制・計画との関係



東京都のこれまでの取り組み

1. 標準的な対応の提示
 - (1) 東京都感染症マニュアル2018
 - (2) 東京都感染症対策の手引き
 - (3) 結核接触者検診マニュアル 等
2. 状況に即した助言
3. 疫学調査の応援
TEIT (Tokyo Epidemic Investigation Team) の派遣
4. 検査体制
細菌・ウイルス検査、分子疫学に必要な遺伝子検査
5. 情報共有
健康危機管理情報ネットワークシステム
6. Web会議を利用した連携

普及啓発活動

1. 職場内感染症対策

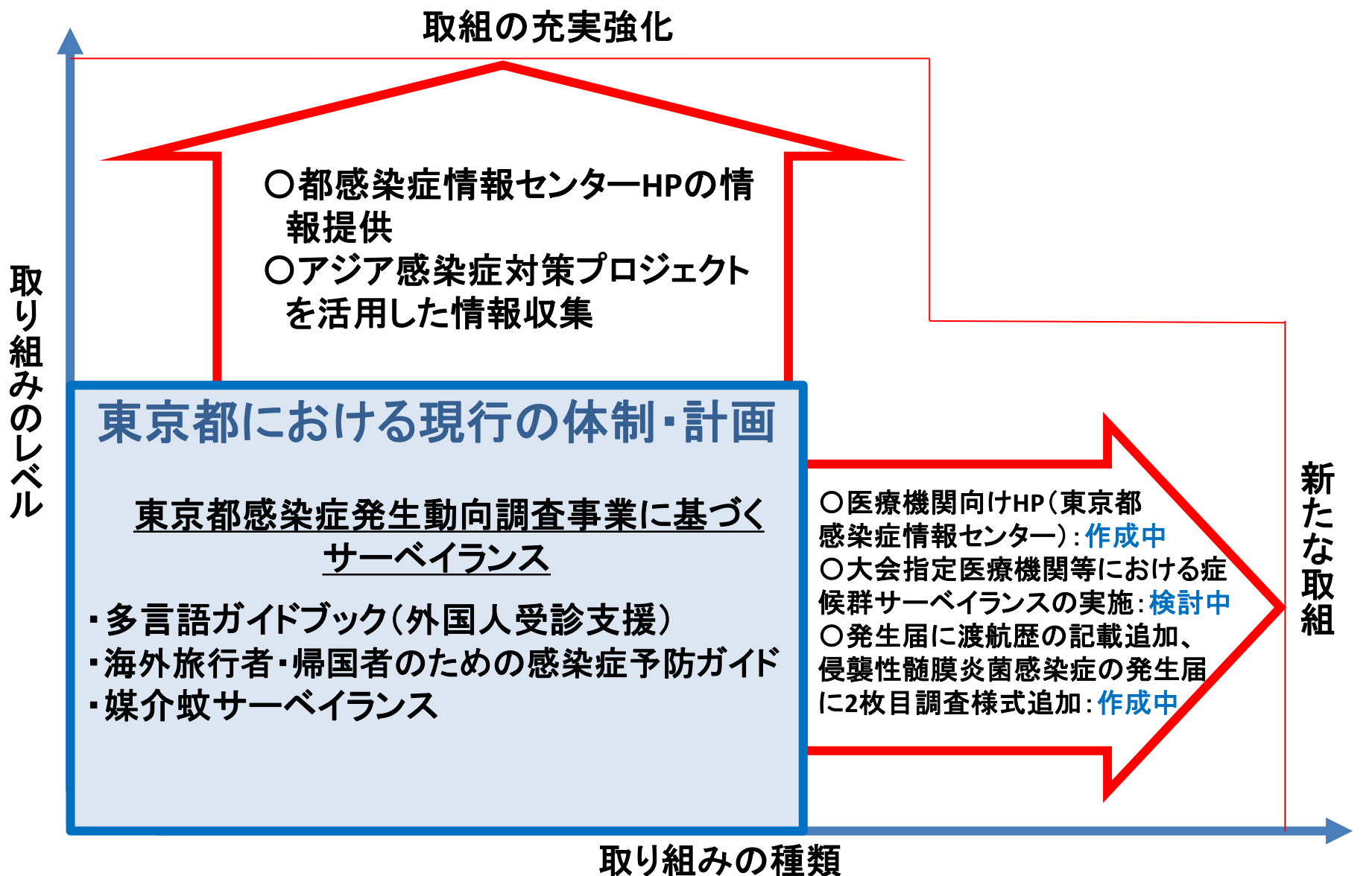
職場で始める感染症対応向上プロジェクト

- (1) 感染症理解のための従事者研修
- (2) 感染症BCPの作成
- (3) 風しん予防対策の推進

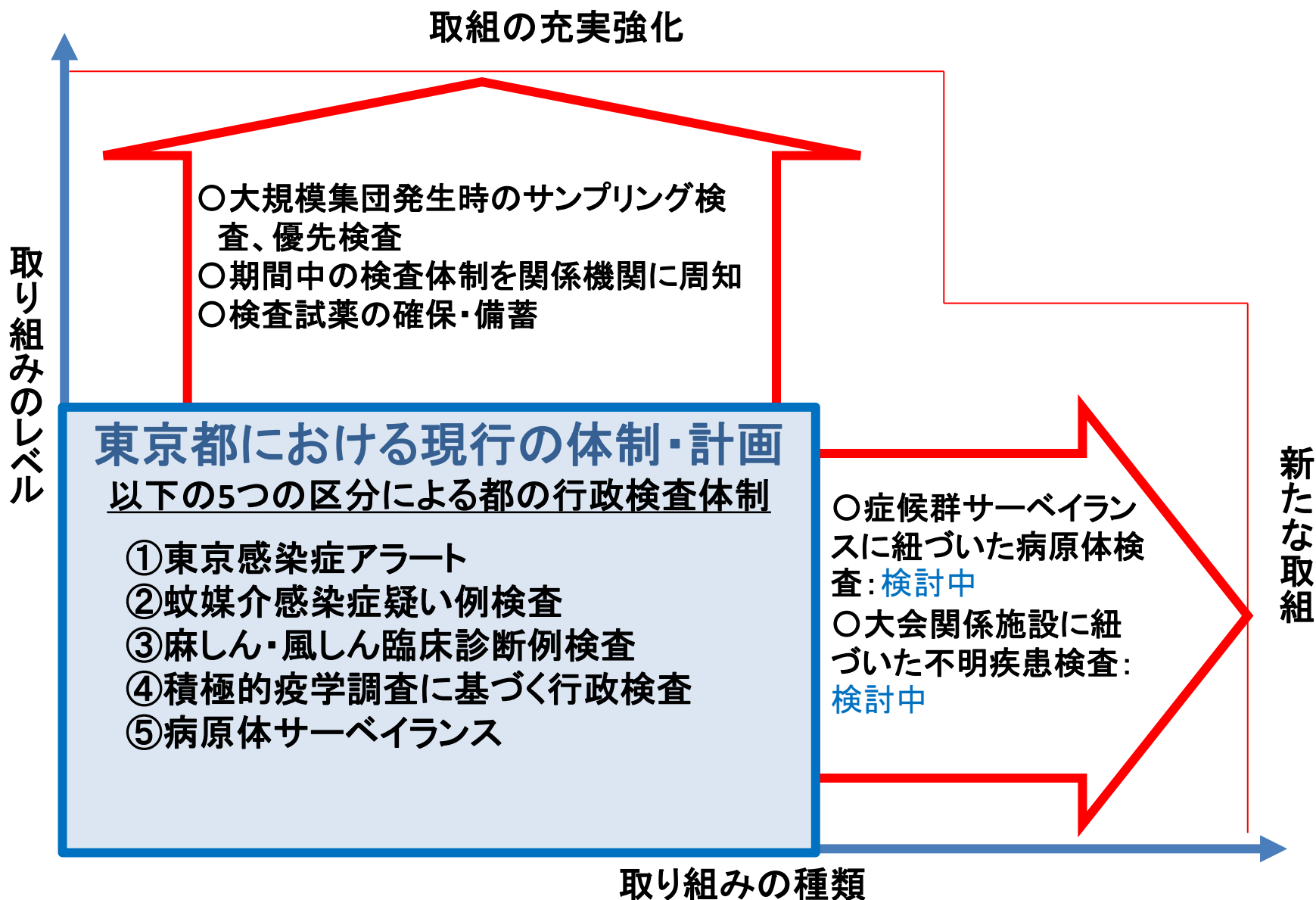
2. 各種啓発資料の提供

- (1) 海外渡航時の感染症の注意
- (2) 入国して間もない外国人向け啓発資料
- (3) 性感染症の予防・相談・検査
- (4) 感染症情報センターホームページ

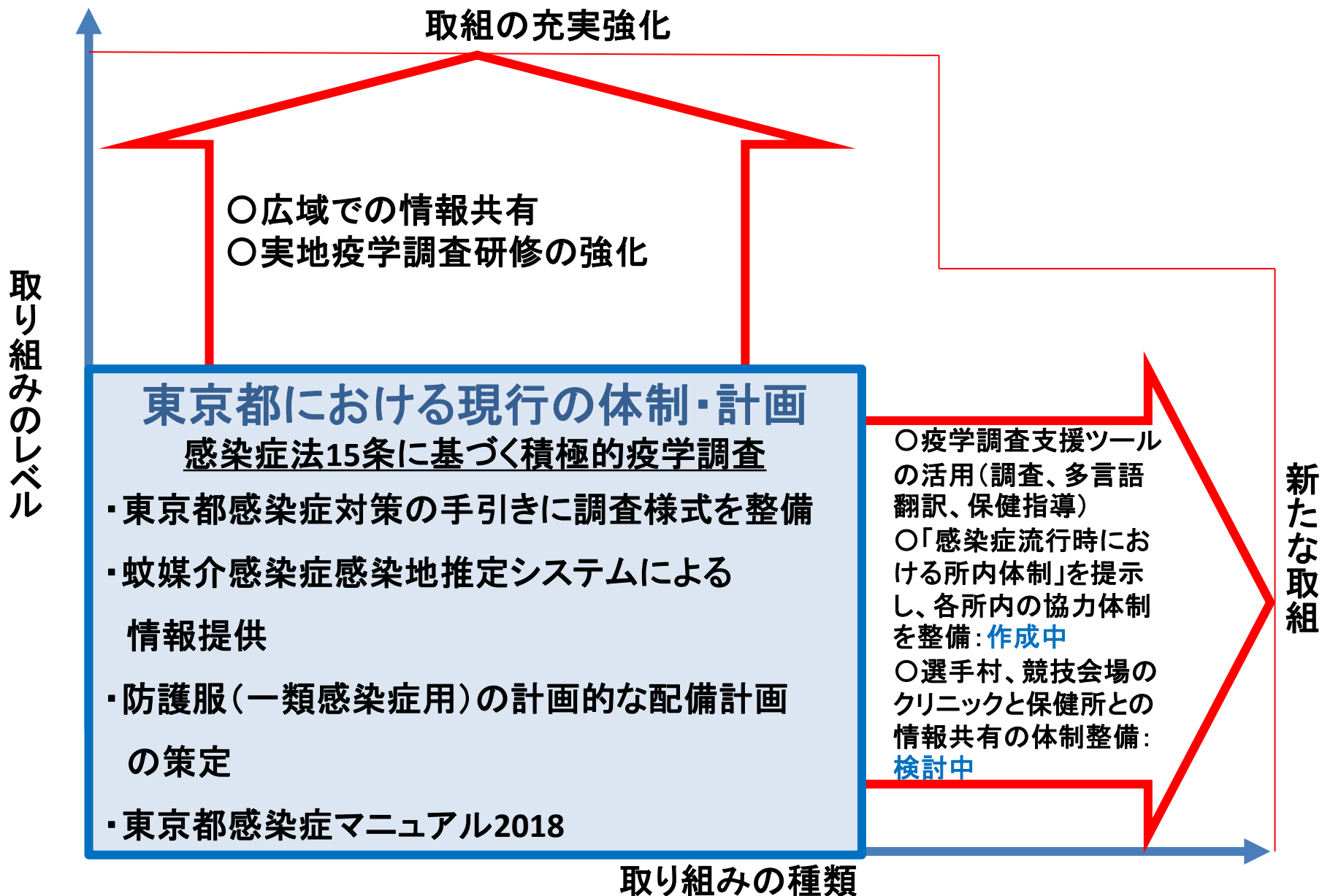
サーベイランス



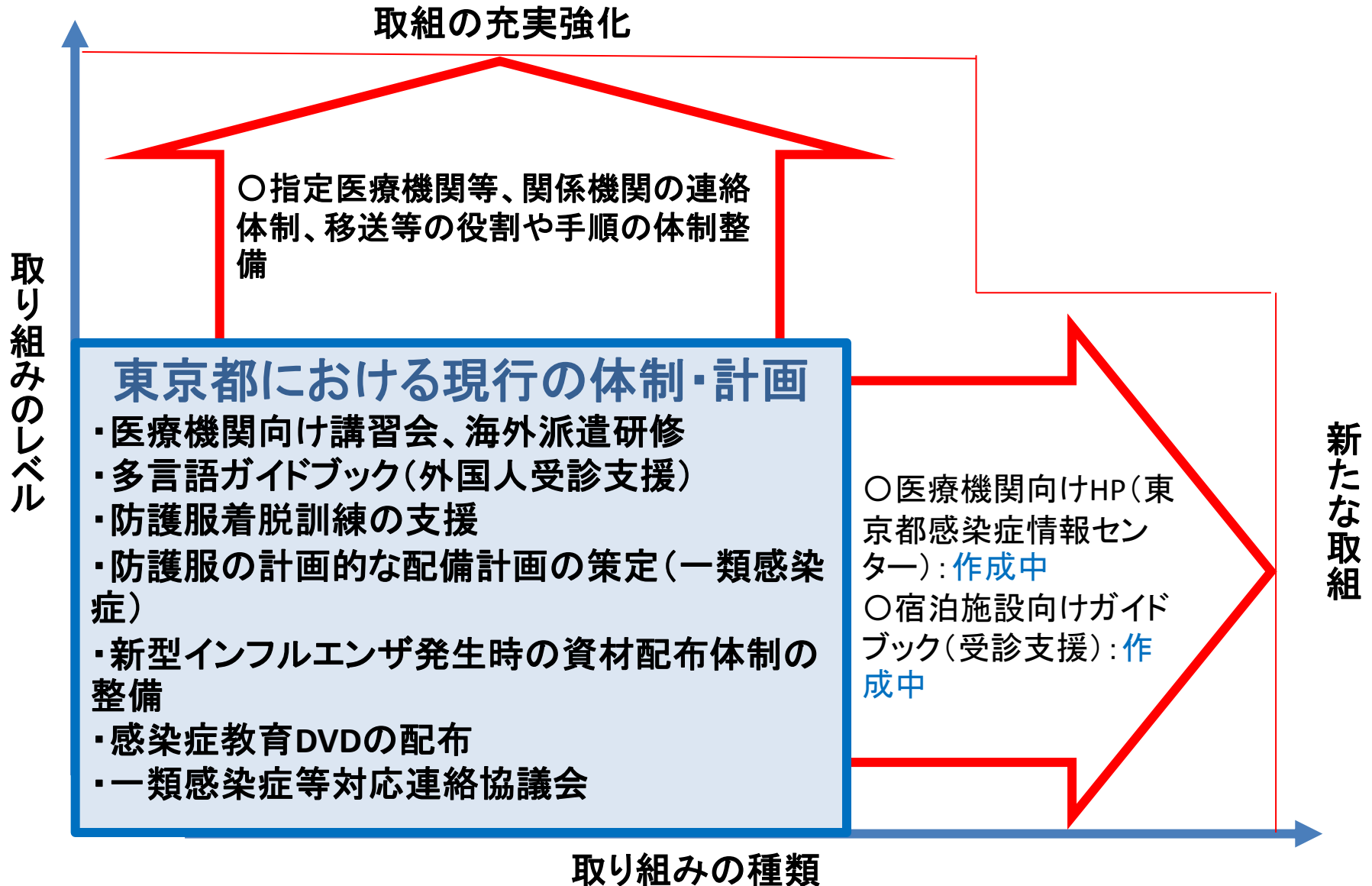
病原体検査



疫学調査



医療提供



保健所における感染症対策の強化

- 医療機関の発生届提出及び発生届記載内容の確認の徹底
→サーベイランスの精度を上げる
- 迅速な積極的疫学調査(支援ツールの活用、記録報告の徹底)
→担当者全員が現地調査に慣れることが重要
- WEB会議への参加(毎週金曜日11:30 コメンテーター会議)
→タイムリーな情報共有に活用
- 実地疫学調査研修への参加(各自のスキルアップ)
→最新の情報と疫学分析の習得

<訓練の実施(オリンピック・パラリンピック準備局主催)>

平成30年度 図上訓練(会場管轄保健所も参加)

平成31年度 実地訓練予定(会場管轄保健所に依頼予定)